5月総評

西躰　かずよし

呼吸器に似ていちめんの二季草

さいう　　石川県

いちめんの二季草（藤の花）。それ以上の解説は、いらないと思います。二季草ということばの選択、すごいと思います。あとは、読者の皆さんにおまかせします。では。

波
鏡
今朝の悲しみ
夏薊

加那屋こあ　　東京都

朝のドラマの映像のようなことば。それを追いかけるのは登場人物ではなく、見ている人で。おしよせる夏の記憶は、その人の時間を何度もまきもどす。

ラーメンに海苔とけかけて夏の星

ムクロジ　　群馬県

とけかけの海苔ひとつで、いっきにラーメン屋までつれていかれる。屋台なのかもしれないと思う。ただ、どんなところにあるラーメン屋であったにしても、語り手にとっての安らぎは、夏の星にあるんだと思う。

どこまでも定規のような先輩を
しずかに照らす夜の自販機

石村　まい　　兵庫県

「どこまでも定規のような」と書かれると滑稽にすら見える。それくらいシリアスで、簡単なこたえなどなくて。とり残されるだけの先輩。永遠のようにも感じられる時間。

八月の手荷物検査場にプリン

蛙多楓太　　東京都

プリンは要冷蔵だから、夏のプリンは忘れられたんだと思う。もしくは置き去りにされたとか。でも、手荷物検査場だから、プリンは検査を待っているのかもしれない。いや、もしかしたら検査職員のおやつかも。プリンだけでひろがるシチュエーション。うきうきする。

殺されないかぎりは
生きているという
人を見つけて森だと思う

小川　未夜子　　石川県

ふだんは意識していない、注文の多い料理店のことや、食物連鎖のこと。殺されないかぎり生きているという人を見つけたとき、世界は森のように見えたのだろう。生きてきたことへの贖罪は、殺されることでしか果たされないのかもしれない。

春光のいれものめいている校庭

深谷　健　　埼玉県

もし、校庭が春の光のいれものになったら、きっと、お弁当はおいしいだろう。もしそうなったら、かつて好きだった人や友だちにも、会うことができるだろう。

すべりひゆ悲しい音のする楽器

大西　美優　　広島県

黄色いちいさな花を咲かせる雑草が、楽器になる。それが悲しい音を奏でるのは、目立たない花を咲かせるからかもしれない。ささやかであることが、かなしみを透明なものにする。

黄色とか緑がちゃんと分かるから
夜が終わってよかったと思う

いまはじまるの　　兵庫県

色もまた、ひかりの中にしか存在しないということを、こんなふうに言うことができるのは、しあわせなことかもしれない。いつもの朝が来るというしあわせ。夜にもまた、きっと終わりがあるのだ。

不眠症を
遠く郭公

青セロファン

ほしはかせ　　群馬県

不眠症にも色やかたちがあるのだろうか。そこに訪れる郭公や青いセロファン。意識の死とも言える睡眠のとなりに、おいてきぼりにされる不眠。凪の海におとずれる、一羽のはくちょうのように、清潔でしずかな夜。